

第1回 京都市山ノ内浄水場跡地活用方針検討委員会 議事録

日時 平成22年5月22日(土) 18:00~19:30

場所 サンサ右京 5階会議室

1. 開会市長あいさつ

2. 市長あいさつ

3. 委員紹介

4. 座長選出

(土井委員を選出)

- ・座長挨拶
- ・副座長として奥原委員を指名

5. 議事

- ・事務局より資料説明

●土井座長 それでは今日は1回目でもありますから、ただいまのご説明に対してできるだけ初歩的な、あるいはご意見でも結構ですし、できるだけ自由にご意見を賜ればありがたいと思いますのでよろしくお願いいたします。なんでも結構です。

●山下委員 今から10年前、榊本市長さんのときに、私は地域の市政協力委員連絡協議会会長をさせていただいていると共に、右京区の保健協議会連合会長、京都市の保健協議会連合会副会長を仰せつかっていました。この場所に再開発でサンサ右京ができたわけですが、実は地下鉄は天神川通までの計画になっていて、三条通とを結ぶ計画ではなかったんです。それから右京区には、この場所になんとしても総合庁舎がほしいなと思っていたわけです。そうしたことから、当時の榊本市長に地下鉄を三条通まで伸ばしてほしいということと、総合庁舎をここにもってきてもらいたいというお願いをしました。

そのお願いは実現したわけですが、今ご説明もありましたように地下鉄の乗客の少なさというのを痛切に感じております。ですから、言い出しっぺの一人として、なんとしてもこの浄水場の場所に人を呼ぶ施設を誘導していきたいと思っております。ここをなんとしても人が集まる、そういう場所にしていただきたい。また、京都の中でも右京区には世界遺産に指定されているところが相当あります。神社仏閣を中心とした観光等の拠点になるような施設も考えられます。一つにはホテルであってもいいし、先ほども門川市長が言われた嵐山と醍醐のサクラの両方を3時間で見られるという、こうしたアクセスの良さを活かして、この場所にそうした施設があってもいいのではないかと思っております。それから大学が京都から府下又は他府県に流れていった状況を考えますと、なんとしても高さ制限等を緩和してもらって、ここに大学の拠点施設ができないかという思いもあります。

それから、京都は最先端の技術をもった事業者さんが多いわけですから、必ずしも右京区の南部だけではなく、この場所にもそうしたものが誘致できないか。欲張りですけどもそういう三つの思いの中から、京都らしい、また特にこの右京の中心のまちに人を呼ぶ施設をぜひともつくってもらいたいと思っています。民間活力を活かしたまちづくりができたという思いでいっぱいです。どうかひとつよろしくお願いします。

●土井座長 ありがとうございます。ほかに皆さん、ご意見いただける方は。

●辻田 先ほど実際に現地を見せていただいたときに土井さんともお話をさせていただいたのですが、結構地下が深く掘られているという、ああいう状況のなかで例えば高層のホテルを建てるとかマンションを建てるといったようなことが、例えばどの程度可能なのか。京都市としては更地にして渡すつもりなのか、そのあたりをどのように考えていらっしゃるのかということをちょっとご説明いただければと思います。

●事務局 今、辻田先生からのご指摘の点ですけれども、資料の4-1を見ながらご説明をしたいと思います。

山ノ内浄水場につきましては、この資料にございますように御池通の北側と南側とございます。このうち南側につきましては水を浄水しています。その水を北側の方で配水池に溜めまして、西京、右京に給水している大切な施設でございます。私どもも、どういう形で引渡しをするのがいいのか。そのあたりについては今見ていただいた施設のとおり、非常に構造的な問題があります。それから浄水場施設を止めずに、日々、水をお送りしながら、機能を保持しつつ最終的には給水区域を切り替えていく必要がございます。そういうことがございますので、今後の活用にあたっては重要な点と思っており、現在その精査を進めているところでございます。その部分についてはいろいろなやり方があると思っており、例えば、やり方によっては事業をされる方にとっても、掘らなくてもいいところは掘らずに、また、使える部分はどれだけあるのかというようにお互いにメリットの出る場所もあるかと思えます。

いろいろな視点から、われわれ事業者としては北側にポンプ場等の施設をつくり、着実に工事、整備を進めて25年度以降も、きっちりした給水能力を確保して、なおかつ、その施設が将来的にしっかりと維持していけるようにしなければいけませんので、そういう部分を勘案しながら精査を進めているところでございます。

●木村 資料をちゃんと見切れていないのであれなのですが、地下鉄の乗客数を5万人増やしたいというのが平成30年ということで目標値が出ているのですが、この跡地を開発することによってどれぐらいの収益を上げられるとか、そういう考え方でいいのかどうかよくわからないのですが、もちろんいろいろな工場とかいろいろなイベント施設とかによって産業を活性化させるとかそういうこともあるのですが、それ以外にも数値的な目標というのは地下鉄の乗降客以外にも何かあるのか。もし、あれば教えていただきたいと思えます。

●事務局 地下鉄の目標といたしましては先ほどから申しあげておりますように、平成30年度までに5万人増客ということになってございます。

●事務局 ここに施設を誘致することによって地下鉄の利用を促進する。地下鉄のお客様を増やすということ以外に直接的に収益といったものの目標につきましては、この土地は公営企業であります京都市の上下水道局の土地、施設でございます。これについては新たな民間の活力を生かした形での活用ということで、民間の方への売却という方法もございますし、長期的に貸すという方法、そういったことを幅広くここでのご審議も踏まえた形で最終的には検討していきたいと思っておりますけれども、当然公営企業としての収入をきっちり確保するということは必要であると思っております。

●土井座長 確認なのですけれども、売却が前提で、高く売れることが良いということではないということですね。いろいろな収入の取り方は必要だけれども、それはやり方によって柔軟に考えていきたいということではないのでしょうか。

●事務局 この場所にどういう機能の施設なりを誘導していくかという、それが先ほど山下委員のほうからもございましたけれども、京都市全体に対する効果と、それと直接的なここを売るなり貸すなりの収入の効果と、これも複合的な要素だと思います。どの程度、何をどのように優先していくのかということ、ここでの議論を踏まえた形で最終的に決めたいと思います。ただ、価格競争性といいますか、そういった観点も当然跡地の活用を決定していく過程のなかでは、そういった要素も必要かなと思っております。

●土井座長 価格も必要だけれども機能も必要だということですね。どちらを優先するかは、今のところは未確定ということのようです。単純に高いところがいちばんいいという話ではない。経済的な効果といいますか、金銭的な効果だけを今のところは求めているということではよろしいのですか。

●事務局 ただ、今、われわれが内部でいろいろ関係の部局で議論をしまして、事務局としては、そういうことも含めてこういった検討委員会のなかでご意見をいろいろいただければと思っております。

●荒川 現地を見せていただきまして何でもできる場所だなというのをまず感じました。これだけの面積と交通アクセスをもった広大な土地ですので、何でもつくろうと思ったらできる場所ですね。そのうえで、では何をつくったらいちばんいいのかということですが、用意していただきました資料を見ますと、京都市のマスタープラン、第3部の地域別構想から始まっています。地元の右京区の皆さんにとって実りの多い施設をつくるのはもちろんなのですけれども、やはり全市的な視点で取り組むとおっしゃっていますので、京都市全体がどういう将来像、京都市がいったいどういう市になろうとしているのかということのをわかったうえで、どういうものをもってきたらいいかという議論をしたほうがいいのではないかと思うのです。

このマスタープランができたのは平成 14 年ですから、24 年度の浄水場廃止時には 10 年経っているわけです。そのときに京都市が芸術のまちを目指すとか、環境都市という方向に進みたいとか、市の将来像を見据えた活用が必要かなと感じるのです。既存の施設を単に壊して更地にして渡してしまうのが本当にいいのかどうか。京都市の姿勢としていいのかどうかということは、考えないといけない問題だと思いますし、そこに知恵を絞るべきではないかと思います。ですから、先ほど市長さんがいらっしゃるときにおうかがいすればよかったのですが、京都市としてこの京都をどうしたいのかということをもっと知りたいなと思います。

●土井座長 山ノ内浄水場の跡地をどうするかということよりも、京都で例えば欠けている機能、これから先を見たときに何か欠けている機能は何か。あるいは上乘せしたい機能は何か。そうした機能の中でこの場所に当てはめることができるものがあれば、ということですね。

●荒川 そうです。それとやはりそれをやる時、どのようにするのかという手法も問われています。

●事務局 まちづくりに関するご質問ですので少しお話をさせていただきます。今ご指摘のとおり、都市計画マスタープランについては策定後年月が経っておりまして、ちょうど今、都市計画審議会のなかに部会を設け、新しい都市計画マスタープランをつくる準備をしております。都市の将来像について、具体的にお示しできるものにまでなっておりませんけれども、大きな考え方としては、コンパクトで持続可能なまちをつくっていかうということ。この太秦天神川でいいにしても、一つは鉄道結節点ですからここを中心に複合機能といいますか、さまざまな機能をもったそういうまちをつくっていかう、公共交通優先の歩いて楽しいまちをつくっていかうということでございます。

京都といいますといろいろな顔があります。大学、学術、芸術、歴史、文化、さらには先端企業、ものづくり。さまざまな顔があります。こういう顔をより高めていって、世界のなかでも存在感のある京都というまちをつくっていきたいと思っております。

●事務局 今日資料を入れさせておりますが、市役所がこういうことをすると資料漬けで、委員の先生に迷惑をかけるのですけれども、やはりこの議論にあたり、京都のまち全体を活性化していくうえでこの場所をどうしようかということで、京都市がどんな姿のまちを目指しているのかというのは基本として必要だと思います。今、都市計画局から申しましたように、こういう黄色の冊子、京都市基本計画第一次案が昨日できました。京都市基本計画は 10 年ごとにつくっている計画で今年で満 10 年を迎えまして、来年から 10 年の新しい基本計画を今つくっております。この検討委員会の委員さんにも基本計画の委員をお引き受けいただいております。土井座長は右京区基本計画の座長をいただいております。

ちょうどこの第 1 次案が昨日できまして、1 カ月間、市民の方のご意見等も聞いていこうとしております。この中に 5 つの京都の未来像、10 の重点戦略と、各分野別の基本的な

方向というのを盛り込んでおりますので、この資料を委員の皆さん方にお渡しをさせていただきます。それと今の都市計画マスタープランは来年度の新たなプランの策定に向けて今、検討を進めているところです。

●土井座長 ありがとうございます。あまり京都市のお考えのことをそのまま出してしまうとそれが答えになってしまう可能性があるのですが、今日はもう少し自由に話をしようということのようです。そこでこれから京都で、こんな機能が必要ではないかということもご意見をいただいて、それが山ノ内に当てはまるのならいいし、そうでなければそうでなくてもいいと思います。例えば 50 年先の京都を考えて、こういう機能などが必要になるのではないかと、あるいはこれがいいのではないかと、委員の皆さんにご意見をいただきたいと思います。

●山下 今、こうした不景気のときに用地を売るというのは最悪でして、今は貸すのがいいのではないかと考えています。もし売却となりますと、今は変わってきたのかもしれませんが、マンション業者やパチンコ屋さんに最も高く売れるのではないかと感じています。

それと御池通の西大路通から西側は、歩道を歩いている人があまりいません。縦の葛野大路もそうですが。何とか歩いてもらおうとすると、企業でもないし、やはり大学か、もしくは地下鉄の利便性を考えるとホテル関係ではないかと感じています。まして御池通の下を南北に行き来できるとなると、相当大きな宿泊施設も可能だと思います。広い跡地ですから他の施設もあわせて立地することもあるでしょう。

今日の委員会には出席されていませんが、商工会議所や経済同友会の委員から経済界としてのご意見も出てくるのではないかと考えております。

私は、地域からのいろいろな要望をお聞きして、そしてご提案させていただく立場におりますので、御池通や葛野大路通の歩道を人が埋め尽くすとはいいいませんが、もう少し歩いていただけるようになる施設を誘致してほしいと思います。また、用地は売るよりも貸す方が今はいいのではないかと感じています。

●土井座長 ありがとうございます。ほかにご意見はございませんか。それでは私も意見を述べたいと思います。諮問のなかに機能分野という言葉が審議事項として入っています。具体的な施設というのはまたいろいろ考え方があると思うのですが、機能分野ということで考えると、例えば先ほど教育といわれた大学でもそうでしょうけれども、京都の市内にある教育機能がここへ来るというのも一つの方法ですけれども、それはいうなれば内々の移転であって、京都に大きくポテンシャルが増えるということではないと思います。

先ほど少し申しあげましたけれども、京都市民が思っている以上に京都駅から近い。あるいは四条河原町からも近い、ということで、京都だけではなくて京都以外の人たちも来てくれる、広域から人を集めることができる施設が考えられる。そういう意味での例えば先ほどから出ている教育・研究機能であるとか、医療・健康的な施設。そういう施設を想定して、しかもできれば京都だけではなくて、先ほどもおっしゃったようにもう少し広域から人が来てくださるような施設にしていくことが望ましいと思います。

そういう施設をつくろうとすると、先ほどご説明いただきましたような土地利用的な問

題でいうと、もう少しインセンティブとして、用途だけではなく容積をもう少し積まないといけなとか、高さの問題とかいろいろな問題がおそらく出てくるかもしれません。まず何よりも山ノ内浄水場の位置が非常に便利な位置だということをもっと広く、いろいろな人たちに知ってもらおう。市民の人たちも含めて知ってもらおうことが重要です。すると広域的な位置付けがもう少し見えてくると思います。なんとなく西の端にあるというのを払拭していくのが大事かと思います。そういうことでポテンシャルが上がっていくのではないかという感じがします。

それからにぎわいの施設という意味でいうと、商業施設というのが機能分野としてはあるのかもしれませんが、商業系ですごくいいものができればいいのですけれども、昨今のということで、50年先はよくわからないですけれども、この数年の話を見ていくと、例えば阪急百貨店の河原町店が閉鎖になるとか、それから京都駅の南に大きい商業施設がオープンするとかの話があります。どうしても商業のあり方そのものについて、構造転換期にかかっていると思います。おそらく大きな商業施設に駐車場をつけるというような形のものもこれからは限界のようにもおもいます。できれば、商店街をもっとにぎやかにしていったらいいなと思っているのですけれども、それはちょっとこの場所では違うなと思います。ということで、商業は必要だと思いますけれども商業だけで、この場所を埋めるというのとはしんどいかもしいと直感的に思います。

今の施設を使って、なんだかワクワクするような施設をつくって、もしかしたらリピーターを呼べればそれはそれでいいのかもしれませんが、工夫の仕方によってはもしかしたらそういうことがあるかもしれません。ただ一般的な感じでいうと商業施設は難しいと思います。

●木村 考えがまだまとまっているわけではないのですけれども、先ほどご説明があったように京都市内で最後に残された非常に大事なところだと思います。私は、産学公連携の活動をやっております関係で、ある地域に大学があることによる経済波及効果は、大変に高いものがあると考えております。

例えば今、クラスター関連の仕事などもしておりますので、他の地域の状況を見る機会もあります。京都は大学がたくさんありますが、たとえば地域によっては大学そのものをまず誘致して、それからクラスターをつくるということが必要だったりします。京都は大学にしても、観光にしても、先端的な科学技術の研究にしてもいろいろなリソースがあり、そのリソースが活用できるという意味では沢山のオプションがあるのかなと思います。ただ、先ほどの最初の質問に関わるのですが、京都市のほうで地下鉄の問題だけではなく、全体として税収が上がるような仕掛けを含んだ新たな産業創出ということも合わせて考えなければならないのかなという印象も受けております。

先ほど座長のほうからお話が合った先端的な健康施設ですね。京都には病院は多いですが、高度な医療系の検査機関などは、かなり待たないと診てもらえないという状況なので、そういう集積があれば他府県からもこの地に集まるようなものがあったら面白いのかなと思います。クリアしなければならないハードルはいくつもありますが、いろいろ夢のあるエリアであると思います。

●土井座長 続けて、今日は自由にお話ください。

●荒川 大学におりますので、辻田先生もそうだと思うのですが、今なかなか大学も大変なのです。学生を集めるのがだんだん難しい時期になっています。ですから、一つの大学をもってきてここで学生を呼んだらいいだろうという考えではなくて、いろいろな大学が共同して、市全体を盛りあげていくような場を作るという考え方があるのではないかと思います。どこもやっていないような、そういう場をつくって、何かプロジェクトを行っていくような、場所と仕掛けと併せた提案という形で行うと面白いのかなという印象です。

そのときに先ほど見てきた建物というのは、私は建築をやっているものですからつい建物ことばかりになってしまいますけれども、完成したのが昭和41年ということですから、万博のちょっと前ぐらいですね。今、大阪の万博公園にある日本庭園のなかにその当時の建物がいくつか残ってしまっていて、よく似た形の近代建築があります。シンプルで力強いという、高度経済成長時代の日本を象徴するような形で残っています。そういうものを核にして面白い、若い人たちが集まれるような場所ができれば、活気にあふれていいのかなと考えます。感想で申し訳ないのですが、

私の大学には通信教育部がありますが、全国から学生が年に6回スクーリングでやって来ます。彼らがこの施設を使うとすると、1日5万人の地下鉄の集客にも役に立つのではなかったりします。単にどこかから大学を一つもってきてボンとつくればいいという話ではなく、複数の教育機関のさまざまな学生たちが利用する施設として上手に考えてつくっていったら非常に面白い場所になるのではないかと思います。

●土井座長 大学が複数集まって一つのエリアをつくるというのは、ポートアイランドの兵庫医療大学と神戸夙川学院と神戸学院ですね。キャンパスを共有化して食堂も一緒になっている。ああいうイメージがもしもね。ほかにご意見はございますか。

●辻田 先ほどからいわれているような教育とか研究開発というあたりを複合した施設がいいのかなとなんとなく感じています。

と申しますのも南部地区、らくなん進都に関わらせていただいて、今も学生と調査しているのですがやはりあの地域にある程度私たちが夢を描くようなクラスターをつくるのは、もう諦めたほうがいいのかと、正直こういうことをいっていいのかどうか分かりませんが、やはり少ししんどいなということを印象としてもっています。やはりここは産業、教育関係をうまくリンクさせて地区として、むしろこちらに新しい産業の芽の一つの柱をもってきてもいいのかと思っています。

先ほど島津さんの話も出ていましたけれども、医療とか高齢者といったようなところで、高齢者も例えば老人ホームとかその手の介護施設というのでもあってもいいのかなと思いつつ、全国の医療関係の人たちがここに集って研究できるような場所でもあって、島津さんとか堀場さんといった大手の企業、あるいはその手のベンチャー企業がここへ来てといったような形で医療、高齢者というあたりをキーワードに、いろいろなタイプの人たちが集う、そんな場にするのも一つの手なのかなと思います。

南部地区をやっているやはり地下鉄がない。地下鉄を通すことで産業が発展するというのは非常に強く感じたので、せっかくここは通っていますから、逆に今度はこれをうまく活用して全国から人を集めるという発想もあっていいかなと思いました。

●土井座長 ありがとうございます。たぶん今日は話をまとめるということではないと思います。

大学の話で、先ほどおっしゃったように学生さんを集めるのは大変な時代になってきました。だから若い人だけではなく様々な年齢層の学生さんを京都なら集められるということがあると思います。アクセスがよくて全国から様々な年齢の人たちを集められるような教育・研究機能が考えられると思います。その場合は、おそらく研究より教育機能でしょう。

先ほど通信教育の話もありました。それから高齢者の人たちにできるだけ動いていただき、健康余命を伸ばしてもらうためには、出歩く目的をつくらないといけないですね。目的をつくるための場があればと思います。それから山ノ内のこの場所だけではなく、先ほどからいわれているようにこのエリア全体を考えると、島津等もあって産業集積があるますから、もう一つこういう地域のなかで新しいインパクトのある施設ができるということになると、かなり京都全体の大きな産業クラスターができそうな気配もするので、それはどうなるのかわからないのですけれどもそういうことも期待できそうかなという感じがします。

ほかにご意見、ご質問等ございますでしょうか。

●山下 私も先ほど大学の話をしましたけれども、大学生はアルバイトがしやすい所に下宿したいと考えています。学校もそういう場所にあるのが一番良いということですから、浄水場周辺はその条件に合っています。大学生は必ずしも二十歳前後の方だけでなく、ある程度年配の方、一応仕事は一段落して自分の好きなことを勉強したいという方もおられるでしょう。いずれにしても一つの施設ではなく、複合的な施設が必要だと思います。

それから今日せっかく上下水道局の方も出席されていますので言いますと、赤レンガの施設が結構商売になるように、地下のコンクリート施設をあのまま部屋などに使って何かできないか。ただ、上に何をもってくるのかという思いがありますけれども。例えば、地下2階、3階が迷路のような居酒屋であれば面白いのかなとか、いろんなことも思っています。とくに北側は地上の施設が残ったら面白いのではないかと、見学しながら感じました。いずれにせよ、一つの施設では無理なので、何からの複合施設を次回までに考えたいと思っております。

●土井座長 ありがとうございます。議題がもう一つございますので、二つ目の議題、今後の委員会の進め方についてご紹介いただいて、また皆さんからご意見をいただいて、最後に時間があればディスカッションをさせていただきたいと思います。それでは今後の進め方につきましてご説明いただけますか。

●事務局 それでは議題の2「今後の委員会の進め方」についてです。資料5をご覧ください。本委員会につきましては今後大変厳しい日程ではございますけれども、だいたい月1回程度、合計6回程度開催をさせていただきたいと考えております。また審議の過程でパブリックコメントを実施し、市民の皆様のご意見を踏まえたうえで山ノ内浄水場跡地の活用方針を本年10月を目途に答申いただきたいと思いますと考えております。なお、委員会でご審議いただきました内容につきましては、先ほどからご説明させていただいておりますとおり、今年末に策定を予定しております次期京都市基本計画、また右京区の基本計画、さらには平成23年度に策定いたします次期京都市都市計画マスタープランなどにも反映をさせていただきたいと考えております。

具体的なスケジュールでございますが、本年8月頃までに委員会を数回開催させていただきまして、活用方針の案を取りまとめさせていただき、9月にその案についてパブリックコメントを実施いたしまして、10月に答申案のとりまとめをいただきたいと思いますと考えております。説明については以上です。

●土井座長 10月までに委員会を6回、できるだけ早く取りまとめたいということでご提案がございました。この進め方につきましてご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

今回のこの委員会のミッションは基本的には諮問書にあるように、活用の方針を決めるということですから、実際に、ここの地域に事業者として手を挙げる方を決めるというのはその次の段階ということですからそれがやりやすいように、できるだけ機能分野、あるいは施設の中身を皆さんと一緒に決めていく。それは一つに決めるのか、あるいは一つプラスアルファぐらいにするのかというのはあると思うのですが、事務局はそのへんはどのようにお考えですか。

●事務局 諮問書にございますとおり、立地を誘導する施設、または機能分野というところでございますけれども、基本的には中核の施設になってこようかと思っております。先ほどから山下委員のお話にもありますように、やはりいくつかの複合的な要素というのは否めない事実でございます。中核の施設のなかにいろいろなものが盛り込まれる。しかしながら盛り込まれるすべての施設の議論はなかなか難しいものでございますので、中核施設をご検討いただく。そして、この地域にふさわしい都市計画の条件、当然これは具体的に決めていく必要がございますが、立地を予定する施設、誘導する施設が決まらないと用途も決まってきません。そのうえで配慮すべき事項、書いておりますとおり地域のまちづくりのどのように資するのか、また景観の問題、環境の問題というところに波及してまいりますので、順序からいいますと誘導する施設、それにふさわしいものが出てくる。このような議論になってくるというように理解をしております。

また座長がおっしゃいましたとおり次は事業者の問題がございます。まずは方向性、活用方針をこの委員会でご審議いただき、それを踏まえまして事業者の募集、また審査、選定を別立てで行っていきたい。このように考えております。

●土井座長 だいたい説明いただいたとおりですが、何かご意見はございますでしょうか。

進め方はこういう進め方でいかがでしょう。おそらく大雑把に書いてあるので、進めていく途中では皆さんからのご意見を賜って最終的な答申についてはまとめていきたいと思えますのでご協力をよろしくお願いいたします。

そうしましたらこの委員会の約束の時間が7時半と聞いておりますので、まだ少し時間がございます。できれば先ほどのお話、こういう機能がいいというお話をさせていただいたら、もう少し自由なお話をさせていただければと思いますがいかがでしょう。先ほどの山下さんのご意見を私は非常に面白く聞きまして、地下に入って行って初めてわかるあの感動といいますか。

●山下 南側のプールは、碁盤の目とは言いませんけれども四角に近い形なので、活用しやすいように思います。基礎として使ったり、そのままの状態でも置いておくこともできるのではないかと。浄水場だったことがわかる部分を残したり、砂の下から水を通して砂がプカプカ浮いている所を見学しましたが、噴水ではないけれどもそのような場所を残して、みんなが周りで雑談できるようになっても面白いと思います。

ですから施設を完全に無くして企業を誘致するのではなく、面白い部分は有効活用したほうがいいのかということ、印象に残っています。

●土井座長 産業遺産のような残し方ということで、それがうまく機能分野とか施設と重なればいいのですが。私自身は今日見学させていただいて、全然違うようですがパリのポンピドー・センターのようだと建物を見て思っ結構ワクワクしました。それはまた建物のつくり方の話になってくるので、今回諮問をいただいている内容と違うのかもしれませんが、結構夢のある施設になりそうな気がするので、それにふさわしいような機能がつけられるといいなと思います。

●山下 この場所にサンサ右京ができましたけれども、浄水場の跡地活用の話がもっと前にあったら、浄水場の場所にサンサ右京を建てて、ここは学校なども考えられたかもしれません。

●荒川 建って何十年も経っていますので、それこそ耐震強度とかいろいろな問題があると思うのです。もしかしたら残すほうが壊して建て替えるよりはるかにお金がかかるということもあるかもしれないのです。そのときに、では諦めようと思うかどうかだと思うのです。それでもやはりあえて残していくのかどうか。その姿勢が問われるのではないのかと思います。経済性はもちろんですけども、その一方でそういう文化的なことに対する取り組み姿勢というようなものですね。

あともう一つは、大きな超高層のホテルをつくるということを考えますと、建物の高さ制限の緩和という話が当然出てくるかと思えます。一方で今、地下に大きい空間を有しているわけで、もしかしたらそこを積極的に使うことで、あまり高いものは建てずに地表をある程度残したまま大きなボリュームを確保する可能性もあると思えます。実際にそれが現実的かどうかはきちんと調べてないといけません。そうすると、地表面は緑で覆われた公園のような場所になっていて、下に大きな空間があり、そこに日本中、あるいは世界

中から集まって来た人たちが何か楽しげなことをしているような、かなり面白いものができると思います。夢のようなお話なのですけれども、もしそういう場所がこの京都にできたとしたら、それはとても素晴らしいことだと思います。そういう夢を見させてくれるような印象を受けました。

●木村 今日直接見せていただいて意外に民家の住宅が近接しているなという印象を受けたので、そことの要望であるとか、そういうものに対しての対応とか、あるいは具体的に要望が出ているというようなことに対してもし何かあれば教えていただければと思います。

●事務局 今は浄水場という施設でございますので、具体的な内容は聞いておりません。

●土井座長 基本的には川と道路に囲まれているのですね。民家が4-2の資料太秦安井松本町のところに描いてあるのは工場ですか。

●事務局 少し説明させていただきますと、北側は天神川が一定の境界になっています。東側の都市計画道路が葛野大路です。西側が天神川になりますが赤線で区切りました御池通の南側、アールになったところに一部工場がございまして、それから住宅、パチンコ屋などアミューズメント施設がございまして、それから浄水場の南側に、西高瀬川、その南側が住宅です。大きくは南と北は河川で区切られ、西のほうは接している状況にあるということでございます。

●土井座長 一部住宅が接していて、あとは工場ですね。

●山下 川に接しているので北側の住宅とは離れています。まして真ん中は、御池通ですから、跡地活用にあたっての周辺からのクレームは出にくいと思います。御池通の北側の施設、場内の配水池のところはどうなっているのですか。

●事務局 北側でございます配水池ですが高さが5メートルぐらいあります。5メートルぐらいの地下の構造物ということで、ご覧になったように配水池の天井が現状の地盤よりかなり下がっております。2.5~3メートルぐらい下がっていると思います。そこからさらに下に5メートルほどの地下構造物があるという具合になっています。

●土井座長 先ほどの木村さんの話の関連ですが、山ノ内浄水場が機能、役割を終えるという話はかなり前から出ていたような気がします。ですからそういうことを前提として、いろいろな要望や意見が市に寄せられていることはありませんか。

●事務局 平成20年頃に廃止という話が新聞記事になったときに、ここをまず廃止するのか、また跡地をどうしていくのかという問い合わせは複数ございました。大学とか商業施設とか開発事業者からでしたが、問い合わせのレベルでございます。提案とかそういうものはまだございません。具体的に活用について検討するというお話をさせていただいた

のは今回初めてでございます。

●土井座長 とくにはないのですね。ほかにご意見、ご質問はございませんか。今日3名の委員の方が残念ながらご欠席ということで、もし何か3名の方から、何かこれにつきましてご意見が出ていればぜひご紹介いただければと思います。

●事務局 今回、事務局の日程調整の不手際で、とりわけ経済団体のお二方、それから都市計画ご専門の竹山委員が、どうしても日程がつかずに今回ご欠席でとなっております。具体的に十分な説明ができておりませんで、この件についてご意見をお聞きすることはまだ十分できておりません。3名の委員には、今日のご説明も当然させていただき、ご意見を把握して、次回までにご紹介させていただきたいと思います。

●土井座長 ぜひご意見をいただきたいと思います。委員の皆さんからこの土地の活用について、いい話も悪い話も含めて、ご意見をいただければとてもありがたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

議題で「その他」と書いてありますけれども、その他の議題はございますか。

●事務局 「その他」ということでは、自由な討議ということを考えておりましたのでとくにはございません。

●土井座長 今日用意されていた議題は以上ということですのでよろしいですね。では、委員の皆様、お忙しい時間をお集まりいただきまして、本当に夢のある話を積極的にいただきまして誠にありがとうございます。以上で、第1回目の京都市山ノ内浄水場跡地活用方針検討委員会につきましては終了させていただきたいと思います。

事務局のほうから連絡事項などございましたらお願いいたします。

6. 連絡事項等

●事務局 熱心なご議論をどうもありがとうございました。第2回の進め方につきましては先ほどの皆様方のご意見を踏まえまして、座長のほうと調整をさせていただきたいと思います。また事前に各委員の皆様にはご相談をさせていただくと思いますのでよろしくお願いいたします。

次回でございますが、今回事務局の不手際で、このような日程になってしまいましたけれども、次回は6月中旬ということで、日程の調整をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それからこの委員会の広報についてですが、検討委員会の資料、摘録等につきましては京都市のホームページに今後アップしまして、市民の方々に情報を提供していくこととなりますので、その点についてもご了解のほどよろしくお願いいたします。事務局からの連絡事項は以上でございます。

7. 閉会

●事務局 それでは本日は誠に熱心なご議論をありがとうございます。これで閉会をさせていただきます。ありがとうございました。